

三鷹市立中原小学校 令和5年度【音楽】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌うことや、曲に合わせて体を動かすことを楽しんでいる。 ○教師の真似をしてリズム打ちすることはよくできる。「たん」「たた」「うん」のリズム記号を見て、リズム打ちをすることはだいたいの児童ができる。毎回音符や教員の真似をしてリズム打ちをすることで、「たん」「たた」「うん」のリズムを身に付けさせる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①拍に合わせて動いたり、曲想を感じて動いたりすることができない児童がいる。曲を聴いて体を動かすことを繰り返し指導していく。 	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綺麗な声や音について考えさせ、繰り返し練習したことで意識して声や音を出すことができるようになった。 ・鍵盤ハーモニカは「ド〜ソ」までの音を使って簡単な曲の演奏ができるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせてたり、曲想を感じたりする感覚には個人差が大きい。 ・鍵盤ハーモニカを楽しんでいるが、正しい指使いで演奏することが難しい児童もいる。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れにのることや、簡単なリズムを打つことはできるようになってきた。自分たちで考えたリズムを取り入れて、いろいろな長さやリズムのまねっこ遊びを継続していく。 ○歌を歌うことや楽器を演奏することが好きな子が多く、楽しんでできている。 ○鑑賞では、体で曲の感じを表現することは積極的にできている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歌う時の姿勢や綺麗な声の出し方、友達の歌声や、集団で歌うよさを味わうこと。 ②音の強弱や速さなどから様子を想像して感じたり、使われている楽器を想像したりしながら聴くことが難しい。体を動かしたり、具体的なイラストや映像等で視覚的なイメージをもたせること。 ③鍵盤ハーモニカではタンギングを意識して、正しい指使いで演奏すること。弾きやすさを体感できるようにすること。 	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌に対する抵抗感をもっている児童が少なく、伸びやかな声で歌うことができています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭声発声はまだ身に付いていない児童が多い。 ・音楽の特徴から曲想を捉えたり表現を考えたりに課題が残る。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動では、多くの児童が声をそろえて歌うことができていますが、頭声発声に結び付いていない。 ・リコーダーの学習に意欲的に取り組む児童が多くいるが、タンギングなど基本的な奏法が身に付いていない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歌唱活動では、歌詞や音楽の要素から歌い方の工夫を考える活動を深めることができていない。また、豊かに響かせる歌声のイメージがもてていない。 ②リコーダーの学習では、心地よい音を見つけていない児童がいる。タンギングが身に付いていない児童も多い。 	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌う前に音楽の特徴を考える時間を設けることで、特徴を捉えて演奏することができるようになってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーに苦手意識をもつ児童が多い。指使いを定着させる必要がある。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴を読み取ることはできているが、そこから表現の工夫を考えることが難しかったり、逆に表現の工夫を考えることができていないが、根拠のない工夫になってしまったりしている。 ・リコーダーでの演奏を楽しむことができていますが、吹けるようになるまでに課題が多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①音楽の特徴から表現の工夫を考えることに課題が残る。 ②リコーダーの指使いが身に付いていない児童が多数いる。 	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことと感じ取ったことの結びつきを考える時間を前年度多く取ることができたため、音楽の特徴を生かした表現の工夫を考え、実行することができるようになってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を広く捉えることができず、フレーズを感じ取りながら演奏したり、2つの旋律の関わり合いを踏まえた表現の工夫を考えることにはまだ課題が残る。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、器楽、リコーダー、鑑賞に楽しんで取り組むことができています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①音楽が少し複雑になると、音楽の特徴から表現の工夫を考えることが難しい場面がある。 ②タンギングができていなかったり、指使いができていない児童が各クラス少数だがいる。 	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合奏の経験から、お互いの音をよく聴きながら拍に合わせて演奏することや、聴いている人の立場に立って強弱をつける意識をもつことができるようになってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴だけでなく、歌詞も踏まえて表現の工夫を考へることに課題が残る。また、楽譜からリズムを読み取ることに苦手意識をもつ児童が多い。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を楽しもうとする児童が多く、自分の思いをもって表現を工夫しようとする児童が増えてきた。 ・合奏では苦手な児童にさりげなく教えるなど支えの手を差し伸べる姿も見られる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①変声期や思春期を迎え、自分の声に自信がもてなくなったり、声を出すことに抵抗を感じる児童が増え、声量が落ちてしまっている。 ②音楽の特徴だけでなく、歌詞も踏まえて表現の工夫を考えられるようにしたい。 	